

戦場で傷を負った方々の  
その後のあゆみ

令和6年度 地域交流室展示

# 戦傷病者の 社会復帰

一発の迫撃砲弾で私の部隊は全滅しました。  
私は右目が見えんようになり、帰郷することになりました。

さあ、これからどう生きるか。戦友は戦争で苦勞している。

「野戦では間に合わないが、銃後の教育なら役に立つ」  
ということで、「傷痍軍人の小学校教員養成学校」へ入りました。  
[Hさん]



鉄脚

戦時中、旧日本陸軍によっ  
て開発され、訓練などで使  
用された。

川村義肢株式会社 提供

滋賀県平和祈念館は、県民の戦争体験と関連資料を収集してきました。  
展示では、戦地での負傷者や感染症などをり患した方々の社会復帰に  
焦点をあて、体験談を交えながら帰郷後の生活を紹介します。

関連行事：平和教養講座

令和7年（2025年）1月18日（土） 13：30～  
「義肢の歴史 川村義肢歴史展示室の資料紹介」

（講師：川村義肢株式会社 剣持 悟 氏）

令和6年（2024年）

10月9日（水）～

滋賀県平和祈念館1階

協力：川村義肢株式会社

令和7年（2025年）

2月9日（日）

地域交流室

入館  
無料

開館時間 / 9時30分～17時（入館は、16時30分まで）

休館日 / 月・火曜日（祝日にあたる場合は開館、12/23-1/7は休館）  
※その他業務の都合により休館する場合があります。

駐車場 / 約50台（無料）

